



5月号

# 新都心新聞

THE SHINTOSHIN SHINBUN

購読料6カ月4,000円、毎月25日発行 電話3369-6195 FAX3369-0759

新宿区新聞とは姉妹紙です。

銀座・丸の内・六本木に対抗

渋谷 新宿 池袋

3都市つなく新聞

再開発に向け動きをみせる新宿駅西口

## 新宿西口ロータリー再整備案は今夏に

新宿駅西口では小田急電鉄、ヨドバシの2社が再開発を計画している。小田急電鉄はスバルビルのテナントの立ち退き交渉が長引き、ヨドバシは20年五輪までにめざしていた完成時期を「未定」へとトーンダウンさせるなど、いまだ火が付かない新宿西口開発。新宿区と都は西口広場、バス・タクシー乗り場の再編整備案を今夏に出す方針で、これを機に「西口開発」も点火へと動くのが注目される。一方で、西口では築50年以上の古いビルも目立ち、建物の老朽化に伴い明治安田生命ホールがこの5月に閉鎖、隣接する永和ビルが今年3月から解体工事に着手するなど、今後、西口地価一等地には開発計画の見えない空地も生まれてきそうだ。



## 消えゆく都心の劇場・ホール

### 明治安田生命ホール 56年の歴史に幕

新宿駅西口の多目的ホール「明治安田生命」(9階建て)が、今年5月末で閉鎖する。明治安田生命ホールは、延べ床面積約2万8千4百平方メートルの地下1階から4階まで、56年の歴史に幕を閉じ、56年の長きに渡り、新宿駅西口の目の前にある貴重なホールとして、講演会・映画上映・コンサートなどに利用されてきた。

明治安田生命ホールは、明治安田生命(04年に明治生命と合併)の本社ビルとして、明治安田生命のオプショナルビルが竣工した当初からホールは設置されておらず、56年の長きに渡り、白体についても、建て替えるのか、改修工事を図るか、改修に迫られることとなるが、「現在のところどうするかは全く決まっていない。ホールは96年に改修工事を完了したが、竣工から56年が経過し建物の老朽化が目立つ。「不特定多数の

人が集うホール」として、安全性を確保する必要がある。永和ビル(延べ床面積約8千9百50平方メートル)は、このうち50年以上が経過し、老朽化が目立つことから今年3月から10月にかけて解体工事を進めている。解体後の利用は未定。単独建て替えに踏み切るのか、隣接ビルを所有する明治安田生命に共同開発を呼び掛けるのか、それとも土地売却に踏み切るのかは「全く決まっていない」とい

が、隣接の永和ビルは解体し、明治安田生命新館ビルを建設する9階建ての永和ビル(延べ床面積約8千9百50平方メートル)を建設し、このうち50年以上が経過し、老朽化が目立つことから今年3月から10月にかけて解体工事を進めている。解体後の利用は未定。単独建て替えに踏み切るのか、隣接ビルを所有する明治安田生命に共同開発を呼び掛けるのか、それとも土地売却に踏み切るのかは「全く決まっていない」とい

# 明治安田5月閉鎖 生命ホール

### 永和ビルは3月解体、スバルビルは「立ち退き」交渉



新宿区と都は2014年度、今年夏をメドに、年代の新館の拠点づくり、都は駅周辺のまちづくりに向けた「新宿の新たな街づくり案」を4月に策定。新宿駅東西のロータリー・広場は歩行者優先の歩きやすい広場へと再整備され、西口のバス・タクシー乗り場も変わ

「小田急」スバルビル立ち退きに遅れ 20年までの完成は困難 ヨドバシ

新宿区と都は2014年度、今年夏をメドに、年代の新館の拠点づくり、都は駅周辺のまちづくりに向けた「新宿の新たな街づくり案」を4月に策定。新宿駅東西のロータリー・広場は歩行者優先の歩きやすい広場へと再整備され、西口のバス・タクシー乗り場も変わ

明治安田生命新館ビルを閉めた状態で、現状は96年に改修工事を完了したが、竣工から56年が経過し建物の老朽化が目立つ。「不特定多数の

明治安田生命新館ビルを閉めた状態で、現状は96年に改修工事を完了したが、竣工から56年が経過し建物の老朽化が目立つ。「不特定多数の



新宿駅東口も広場整備が図られる

住み続けられるまちへ  
豊島区の特養待機者数は平成29年3月31日現在7百9名と増加しています。平成27年度に区有地の活用で2カ所の特養を新設し入所の必要度の高い方の需要

地域福祉サービス推進  
新宿区の特別養護老人ホームの待機者はかつては千人を超えていたが新規施設の開

「特養待機者」の現状と課題  
平成30年5月に開設します。更に超高齢社会の進行とともに増加が見込まれる入所希望者に対応するため、老